

伝えたい

まちの遺産

旧右近家住宅西洋館

— 日本海を臨む
北前船主の洋館 —

北前船の大船主であった右近家、11代権左衛門が日本海を見下ろす山中腹に西洋館を建てたのは、昭和10年のことです。当時は昭和恐慌後の不景気な時代で、いわゆる「お助け普請」として窮民対策や地域経済の活性化にも効果があったようです。

西洋館は鉄筋コンクリート造の二階建て、大きな切妻屋根には茶色のスペイン瓦が葺かれています。外観は一階がクリーム色の西洋漆喰を粗く塗ったスパニッシュ・スタイルで統一しているのに対し、二階はスイスのシャレー（山小屋）風で、ベランダを海に向かって突き出し、外壁は楕円の丸太を積み上げた校倉造になっています。

館内に入ると、一階はスパニッシュをベースとしたインテリアで、玄関ホールは床や暖炉周りに貼られたイスラム紋様のタイル、玄関のグリル（格子戸）や暖炉の鍛冶細工、階段の手すりなどさまざまのデザインまで気配りがなされています。その一方で二階には梅材の床や付書院を備えた10畳



建築当初の西洋館



一階がスパニッシュ、二階はスイスのシャレー（山小屋）風

の和室が設けられています。洋館の中に和室があるのは珍しいことではありませんが、温暖な地中海沿岸の石造様式と冷涼な山岳地帯の木造様式を組み合わせた洋館は異例で、設計・施工に携わった大林組の建築にはおろか世界でもここだけだといわれています。

施主の11代権左衛門は幼少期を河野で過ごし、神戸に移ってからは当時流行していたスパニッシュの洋館に住んでいました。夏の休暇には河野に帰り家族で過ごすのが先代からの習わしであり、一夏の別荘としての利用を考え一階の内外には住み慣れたスパニッシュを選んだのでしよう。一方、二階と屋根の形状をシャレー風にしたのは、切妻屋根と校倉造が日本の伝統建築に近く、海上から眺めたときの見映えや日本家屋が建ち並ぶ浜辺の景観に融和させるためだったのではないのでしょうか。

地域包括支援センターです

保健福祉課内 地域包括支援センター Tel 47-8009

こんにちは

「口の寝たきり」を
予防しましょう！①

口の健康(かむ力、飲みこむ力)は全身の健康に関係する！
〜こんな人は「口の寝たきり」に要注意！〜

- 虫歯を放ったままにしている
- 固いものを食べない
- 合わない入歯で我慢している
- 人と話す機会がない
- よくむせる
- 口腔内が不衛生
- 口腔機能を低下
- 脱水
- 低栄養状態
- 運動器の機能低下
- 誤嚥性肺炎
- 閉じこもり
- 認知症 などを引き起こします。

口の問題を抱えていると、食事がおいしくとれないだけでなく、体を動かすことや人と交流することにも消極的になってしまったり生活全体が不活発になり、全身のさまざまな健康に影響を与えます。口腔機能の向上は、まさに介護予防の入り口といえます。



知っていますか？ 誤嚥性肺炎

【予防策】

口の中は常に37℃前後に保たれ、唾液という水分があり、定期的に食物が通過するので、細菌が増えやすい環境になっています。誤嚥性肺炎は、その口の中の細菌を肺に吸い込んでしまうこと(誤嚥)によって起こる肺炎で、高齢者の死亡率が非常に高い病気です。

口の中の細菌を取り除いて清潔にしておく。
(誤嚥しても誤嚥性肺炎にかかりにくくなります。)

かむ力、飲みこむ力を向上させる。

* 毎食後、丁寧に歯をみがきましょう！ *

